

市場のニーズに対応するICTインフラサービス「AZSERVICEシリーズ」

AZSERVICE Series: ICT Infrastructure Service to Meet Market Needs

● 本橋太一

あらまし

AZSERVICE(アズサービス)とは、株式会社富士通マーケティング(以下、富士通マーケティング)が提供する中堅市場向けICTインフラサービス群の総称である。2010年10月に富士通マーケティングが発足した際に、前身の富士通ビジネスシステムが行ってきた直販事業に加え、パートナー事業、商品企画・開発事業が追加された。その際に、富士通マーケティングの得意分野であるICTサービスをより分かりやすく、高品質かつ低価格で提供するための商品化計画が立案された。そこで開発されたサービスが、ハードウェア、ソフトウェア、構築作業を一体化したAZBOX(アズボックス)である。AZBOXのコンセプトは市場のニーズに対応できるように、AZSUPPORT(アズサポート)、AZCLOUD(アズクラウド)、AZNETWORK(アズネットワーク)、AZSECURITY(アズセキュリティ)、AZOFFICE(アズオフィス)などの形で他分野へ展開・細分化されていった。これらのブランドを総括したのがAZSERVICEであり、早期導入・高品質・低コストのコンセプトに基づいたサービスを提供している。

本稿では、市場のニーズに対応するAZSERVICEの各ブランドが提供するサービスの概要について述べる。

Abstract

AZSERVICE is a comprehensive information and communications technology (ICT) infrastructure service for the middle-scale enterprise market offered by Fujitsu Marketing Limited (hereafter "Fujitsu Marketing"). In tandem with the launch of the company in October 2010, the partner business and product planning/development business were added to the main activity of direct marketing, inherited from its predecessor Fujitsu Business Systems. Well-resourced in ICT services, Fujitsu Marketing initially proposed to develop a product that offered easy-to-use, high-quality ICT services at reasonable prices. The initial product thus created was AZBOX, which integrated hardware, software, and system construction. Subsequently, AZBOX was rolled out to other areas and specialized to meet diverse needs of the market, in the forms of AZSUPPORT, AZCLOUD, AZNETWORK, AZSECURITY, and AZOFFICE. AZSERVICE integrates all these labels, and offers services that focus on the principle of quick introduction with high quality and a low cost. This paper explains each label product comprising the AZSERVICE that meets the market needs.

ま え が き

近年の様々な業務において、ICTは必要不可欠なものである。ICTを人事給与や販売管理などの業務系システムと、ネットワーク、セキュリティ、Webシステムといったインフラに区分けした場合、2000年初頭までの主役は明らかに前者であった。こうした業務システムは用途も明確であり、自社の業務を踏まえて慎重に製品比較・検討を行うものであった。一方、後者はどちらかと言えば業務システムに付随するものといった認識であることが多く、「問題なく使えればよい」といった程度に扱われる分野であった。

しかし2000年代後半以降、仮想化環境の普及、サイバー攻撃の急激な増加、データ通信量の増大に伴うネットワーク高速化の要求などにより、ICTインフラには従来以上に品質、コストなどが重視されるようになってきた。更に2010年代に入って、クラウドコンピューティングやソーシャルネットワークワーキングサービス、スマートフォン、タブレットなどの普及により、飛躍的にICTインフラの重要度が高まった。

株式会社富士通マーケティング（以下、富士通マーケティング）では、2010年の社名変更を機に商品企画・開発事業の主力製品として、早期導入・高品質・低コストを実現するICTインフラサービス群AZSERVICE（アズサービス）⁽¹⁾の開発・提供に取り組んだ。AZSERVICEという名称の由来は、ICTの最初（A）から最後（Z）まで、つまり初期構築から運用サポートまでをトータルに提供・支援できるサービスを目指すといった意思を表明している。特に、ICTインフラサービスの導入や運用管理に精通していないお客様でも、簡単かつ安心してご利用いただけることを重視した。

このAZSERVICEは、以下の6ブランドに細分化される。

- (1) FUJITSU インフラ構築サービス AZBOX（以下、AZBOX）
- (2) FUJITSU システム運用支援サービス AZSUPPORT（以下、AZSUPPORT）
- (3) FUJITSU Cloud AZCLOUD（以下、AZCLOUD）
- (4) FUJITSU マネージド・インフラ・サービス

AZNETWORK（以下、AZNETWORK）

(5) FUJITSU セキュリティソリューション AZSECURITY（以下、AZSECURITY）

(6) FUJITSU ファシリティーソリューション AZOFFICE（以下、AZOFFICE）

本稿では、これらAZSERVICEの各ブランドについて、商品開発コンセプトおよび商品概要を中心に述べる。

AZBOX

6ブランドあるAZSERVICEのうち、最初に商品化したのがAZBOX（アズボックス）である。

AZBOXは、富士通マーケティングのセキュリティパッケージやグループウェア、オープンソースソフトウェアなどを早期導入・高品質・低コストでお客様に提供することを目指し、ハードウェア、ソフトウェア、構築作業を一体化した商品である。

AZBOXの強みの一つに定額販売がある。通常、システムの構築費用は個別見積もりとなっており、お客様は具体的なシステム要件を営業やSEに伝え、見積もりを依頼して価格を知ることになる。そこで富士通マーケティングでは、推奨の設定値と機器構成を事前に決めておき、お客様からの必要最低限の情報提供によって構築できるように、仕様を型決めすることで作業の標準化を図り、価格を定額化した。

例えばWebシステムを構築する場合、ソフトウェアはApache、データベースはMySQLといった形で使用ツールを決めておき、パラメーターも富士通マーケティングの推奨値とする。また、機器についても同様に、富士通マーケティングで選定した推奨構成とする。お客様からは、個別に設定を変更したい項目のみヒアリングする。

このように、あらかじめハードウェア構成、ソフトウェア構成、設定内容をほぼ型決めしているため、価格を定額化できる。また、作業内容も標準化しているため、品質を保てると同時に短納期にも対応できる（**図-1**）。

このようなコンセプトで開発したAZBOXはお客様に支持され、最終的に約50種類の製品・パッケージをラインナップとして提供している。次章では、日本マイクロソフト社との協業により開発したモ



図-1 AZBOXのサービスイメージ

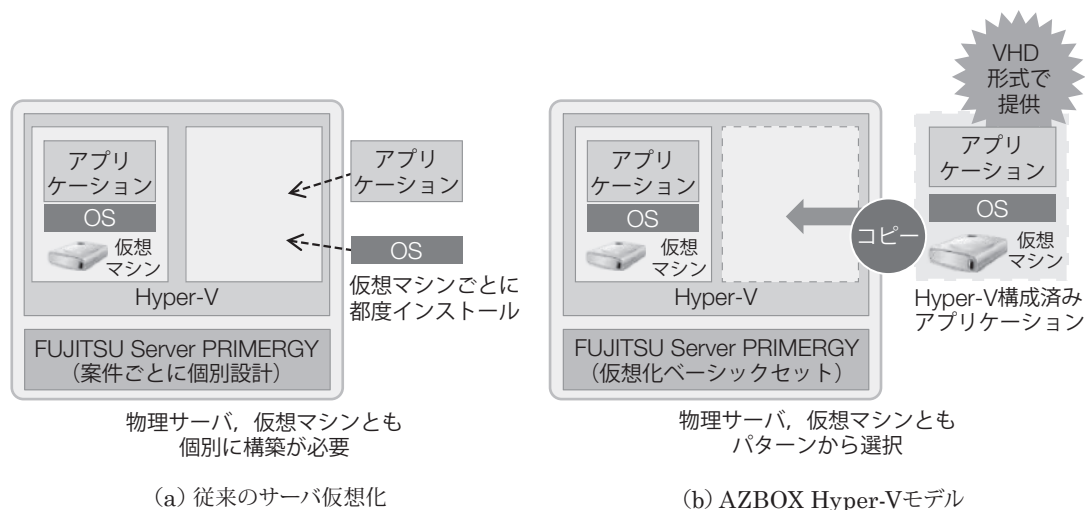


図-2 AZBOX Hyper-Vモデルのサービスイメージ

デルについて紹介する。

AZBOX Hyper-Vモデル

ハードウェア、ソフトウェア、構築作業を一体化したAZBOXはお客様から好評であった。一方で、一つのサーバに一つの機能を搭載することから、仮想化によるサーバ集約を図るお客様の要望には合わない部分もあった。また、50種となったAZBOXの機器構成管理を行うことは、管理面で負担となり始めていた。こうした中、富士通マーケティングは2011年に日本マイクロソフト社と協業し、Hyper-V⁽²⁾による仮想化技術を用いた新たなAZBOXを開発した(図-2)。

具体的な内容は次のとおりである。

(1) ハードウェア (サーバ)

お客様の規模やシステム構成に応じて、5～10パターンの仮想化基盤(Hyper-Vによる仮想化設定を行ったFUJITSU Server PRIMERGY)として提供する。これを「仮想化ベーシックセット」と呼ぶ。

(2) Hyper-V構成済みアプリケーション

前述の約50種類の製品・パッケージを、Hyper-V上で動作するゲストOSとして構築する。このゲストOSは、VHD^(註)ファイル形式でお客様に納品する。仮想化ベーシックセットに複数搭載可能で、お客様が必要なHyper-V構成済みアプリケーションを選定し、それを動作させるために必要なスペック

(注) Virtual Hard Diskの略。マイクロソフト社の仮想化テクノロジーで利用される仮想ディスク。

を考慮した仮想化ベーシックセットを選定する流れとなる。

本アプリケーションは、仮想化ベーシックセットと同時購入はもちろんのこと、運用開始後も自由に追加購入できる。また、前述のとおりVHD形式であるため、USBメモリでの速やかな提供が可能である。このようなコンセプトがお客様に高く評価され、富士通マーケティングのヒット商品となった。

AZSUPPORT

運用サービスであるAZSUPPORT（アズサポート）は、AZBOXと同様、仕様を型決めし、分かりやすい価格体系で提供することを目指している。特に中堅・中小企業は、情報システム担当者がほかの業務を兼務しているなどの事情から、運用にかかる手間はできる限り省きたいと考えていることが多い。このようなお客様のニーズに応えるべく、AZSUPPORTは以下の四つのサービスを提供する。

(1) 窓：ヘルプデスクサービス

お客様のパソコンやシステムに関するQ&Aを電話またはメールで受け付け、対応方法を回答する。

(2) 見：監視サービス

お客様のサーバの死活・リソース状況を監視し、トラブル時に通知する。

(3) 助：トラブル対応サービス

システムトラブル発生時にお客様のもとへ伺い、対処する。

(4) 代：運用代行サービス

お客様に代わってシステムを運用する。

この四つのサービスも原則として定額商品とし、お客様のパソコンやサーバの台数さえ確認できればすぐに金額を算出できること、また契約後は速やかにサービスを提供開始できることを目指して開発した。その結果、数百社のお客様に採用いただいた。しかし、前述の「窓」以外のサービスについては、商談の中で富士通マーケティングが想定した仕様に収まることがほとんどなく、個別見積もりになっていた。このため、現在では「窓」の機能であるヘルプデスクサービスのみを定額商品とし、そのほかについては型決めを廃止し、個別見積もりに変更している。

AZCLOUD

一般的にクラウド型サービスは、IaaS（Infrastructure as a Service）、PaaS（Platform as a Service）、SaaS（Software as a Service）などいくつかの系統に分かれる。AZCLOUDでは、主にIaaSを提供している。

AZCLOUDの特徴は、IaaS上でのサーバのセットアップ（OS基本構築）と運用管理代行をセットで提供していることである。IaaSに興味はあるものの、敷居が高いと感じるお客様にも、簡単かつ安心して利用いただけるクラウド環境を提供することで、特に中堅・中小企業のお客様から高い評価を得ている。また、多くのIaaSが従量課金（使った時間に比例した課金）モデルであるのに対し、AZCLOUD IaaSは定額メニューを用意しており、毎月の料金を固定化できるため計画的な予算編成が可能となっている。

以下に、AZCLOUD IaaSの主なラインナップ3種類の特長を述べる。

(1) AZCLOUD IaaS Type-N

お客様の事業所とクラウド環境を閉域VPN（Virtual Private Network）回線で接続するモデルが、AZCLOUD IaaS Type-Nである。本サービスは、AZCLOUD IaaSとして最初に立ち上げた。閉域VPN回線によって接続することで、お客様が高いセキュリティで利用できるクラウド環境を提供している。なおType-Nは、ニフティ株式会社が提供するニフティクラウドと同一の基盤を利用している。

(2) AZCLOUD IaaS Type-A

お客様の事業所とクラウド環境をインターネットVPN回線で接続するモデルが、AZCLOUD IaaS Type-Aである。インターネットVPNを利用することで、低コストでクラウド環境を利用できる。なおType-Aは、FUJITSU Cloud Service A5 for Microsoft Azure⁽³⁾と同一の基盤を利用している。

(3) AZCLOUD IaaS Type-K

AZCLOUD IaaSのシリーズ3種で最も新しいサービスが、このType-Kである。IaaSの導入支援、ネットワーク回線、運用支援、Q&A対応、運用監視といったサービスをクラウド基盤に包含して提供する、マネージドサービス型のIaaSと

して2016年2月に提供を開始した。Type-Kは、FUJITSU Cloud Service K5⁽⁴⁾と同一の基盤を利用している。

富士通グループでは、全社内システムをFUJITSU Cloud Service K5へ移行し、ICTシステムの導入・維持・管理にかかる総費用の削減など全体最適化に向けた取り組みに加え、SE、パッケージ開発、ソフトウェア開発、研究所などの現場部門での活用も進めている。これらの社内実践により知見を蓄積することで、安心・安全・信頼を証明する基盤として品質を担保し、お客様システムへの活用につなげることができると考える。AZCLOUD IaaS Type-Kは、この信頼性の高い基盤を更に安心してお使いいただけるよう、富士通マーケティング独自の運用管理代行を付加して提供している。

AZNETWORK

AZNETWORK（アズネットワーク）は、中堅・中小企業向けのシンプルで安全かつ低コストなネットワークサービスである。現在、本ブランドで提供しているサービスには「Managed VPN Light」がある（図-3）。

本サービスは、VPNへのアクセス回線として主にベストエフォート型のEthernet回線またはフレッツ光などを活用することで、回線速度は一定の水準を保ちつつ低価格を実現している。また、小規模事業所であればルータレスでの導入も可能であり、ネットワークに関する特別な知識がなくても容易に拠点間接続が可能となる。前章で述べたAZCLOUD IaaSとの親和性も考慮しており、本

サービスのVPNからAZCLOUD IaaSの環境にダイレクトにアクセスする回線も提供可能である。

そのほかにもファイアーウォール機能を備えたインターネットアクセス回線や、セキュリティを高めるためのアンチウイルス、スパムフィルター、Webフィルターといった中堅・中小企業のネットワーク環境に必要な十分な機能もオプションとして提供可能である。

AZSECURITY

AZSECURITY（アズセキュリティ）は、主にクラウド型で中堅・中小企業向けに提供するセキュリティソリューションである。中堅・中小企業が必要とする機能に絞って、低コストで容易に導入できるサービスを提供している（図-4）。

IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）の調査によると、約7割の企業がマルウェアに遭遇しており、また約2割の企業がサイバー攻撃を受けたことがあると回答している。⁽⁵⁾このような状況から、AZSECURITYにおいてもまずはマルウェア対策サービスとして「AZSECURITY BSTS（ビステス）マルウェア対策」をリリースした。サービスを導入いただいたお客様からは、マルウェア対策だけでなく、それ以外のセキュリティ対策もクラウド型で提供してほしいとの要望があり、Web改ざん検知機能などを順次サービス化し、現在は以下に挙げる7種類のセキュリティサービスを提供している。

- (1) AZSECURITY BSTS マルウェア対策
- (2) AZSECURITY BSTS 資産管理
- (3) AZSECURITY BSTS Webフィルタリング
- (4) AZSECURITY BSTS メール誤送信対策

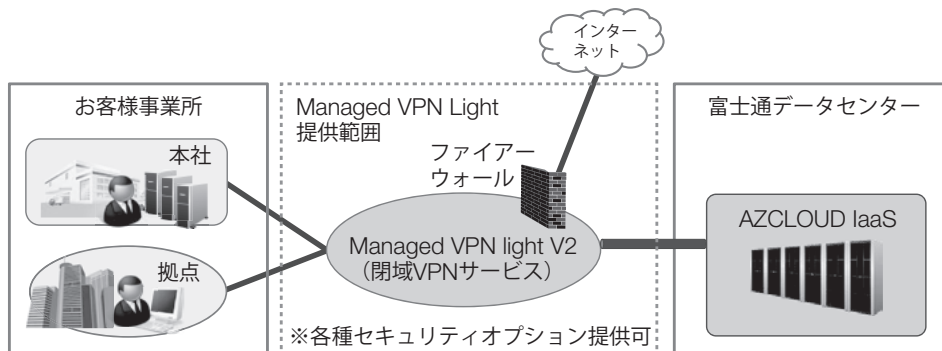


図-3 AZNETWORK Managed VPN Lightのサービスイメージ

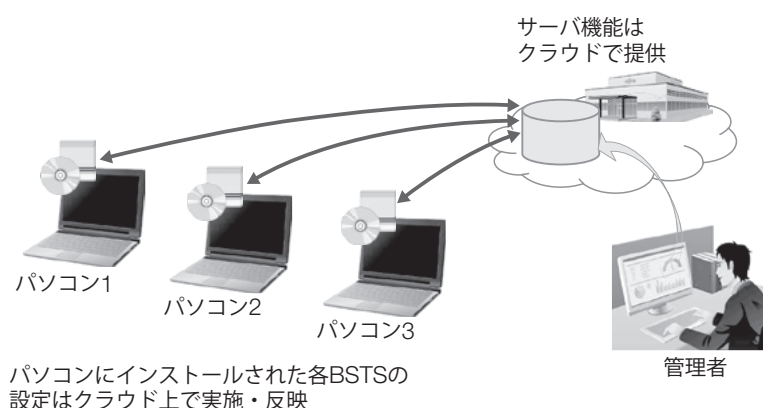


図-4 AZSECURITY BSTSのサービスイメージ

(5) AZSECURITY BSTS Web改ざん検知
 (6) AZSECURITY BSTS 標的型攻撃対策 FFR yarai
 (7) AZSECURITY 標的型メール攻撃訓練サービス

なお、(1)～(6)のサービス名のBSTSとは「Business Security Technical Service」の略である。中堅・中小企業がビジネス上必要とするセキュリティ対策をカバーするクラウド型サービスというコンセプトで、AZSECURITYのサブブランドと位置付けてサービス開発を行っている。BSTSシリーズ全てに共通して言えることは、お客様先で管理用サーバを構築する必要がなく、管理機能は全てクラウド上で提供されることである。管理サーバの導入・運用にはコストや手間がかかることから、中堅・中小企業ではセキュリティ対策に消極的になるケースが多い。一方、BSTSシリーズではこうしたコストや手間が不要なため、中堅・中小企業のお客様に非常に好評である。

AZOFFICE

AZOFFICE（アズオフィス）はICTを活用した物理セキュリティを中心とする工事ソリューションの型決め商品であり、AZBOXのコンセプトに非常に近い。AZBOXがハードウェア、ソフトウェア、構築作業を一体化したものであるのに対し、AZOFFICEはハードウェア、ソフトウェアに加えて設置工事・設定作業を一体化している。

富士通マーケティングでは、これまで企業のオフィスにおける様々な工事に携わっており、その中でも特に構築依頼が多く型決めがしやすい製品

をAZOFFICEとして提供している。主なサービスは以下の5種類となっている。

- (1) AZOFFICE 監視カメラシステム導入パック
- (2) AZOFFICE 静脈認証入退出管理システム導入パック
- (3) AZOFFICE サーバラック免震装置導入パック
- (4) AZOFFICE ICカード認証入退出管理システム導入パック
- (5) AZOFFICE クール&セキュアラック導入パック

このように、物理セキュリティや事業継続関連の製品と工事を一体化し、定額で提供することで、迅速かつ高品質、低コストなファシリティ導入が可能となっている。

む す び

本稿では、AZSERVICEの各ブランドについて、商品開発コンセプトと商品概要を述べた。各ブランドに共通して言えることは、最初に提供を開始したAZBOXから一貫して「早期導入・高品質・低コスト」と、できる限りの定額化を追求したことである。もちろん、全てを定額にできるわけではなく、お客様の要件によっては個別見積もりが発生するケースもある。しかし、提供する内容が明確であり、かつコストもすぐに把握できることは、お客様にとってもメリットである。

最近は特に、お客様から「システムのクラウド移行」「サイバー攻撃対策」の相談をいただくことが非常に多い。今後は、AZSERVICEの中でも特にAZCLOUD、AZSECURITYの商品拡充に注力していく所存である。

参考文献

- (1) 富士通マーケティング：AZSERVICE（アズサービス）。
<http://www.fujitsu.com/jp/group/fjm/portal/azservice/>
- (2) マイクロソフト：Hyper-Vの概要。
<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh831531.aspx/>
- (3) 富士通：FUJITSU Cloud Service A5 for Microsoft Azure。
<http://jp.fujitsu.com/solutions/cloud/paas/a5/>
- (4) 富士通：FUJITSU Cloud Service K5。
<http://jp.fujitsu.com/solutions/cloud/k5/>
- (5) IPA：2014年度 情報セキュリティ事象被害状況調査—報告書—。
<http://www.ipa.go.jp/files/000043418.pdf>

著者紹介



本橋太一（もとはし たいち）

（株）富士通マーケティング
商品戦略推進本部
AZSERVICE推進統括部
セキュリティソリューションの企画・
販売支援業務に従事。